

早稲田大学・ふくしま広野未来創造リサーチセンター
「農林水産業の再生と風評被害問題」に関する専門家会合

「福島県における海面・内水面魚類の放射能汚染の現状と漁業復興への課題」

主催：早稲田大学・ふくしま広野未来創造リサーチセンター・Waseda-Bridgestone Initiative for
Development of Global Environment・早稲田大学レジリエンス研究所(WRRI)

<http://www.waseda.jp/prj-matsuoka311/>

共催：早稲田大学環境総合研究センター

1. 趣旨

2011年3月に発生した東京電力福島第一原子力発電所の事故に伴い、大量の放射性物質（主に放射性ヨウ素¹³¹I、放射性セシウム¹³⁴Csおよび¹³⁷Cs）が大気中に放出・拡散した。その影響により、福島県の海面漁業の活動も一時停止となった。福島県では、放射能汚染の影響への対応として、緊急時環境放射線モニタリング検査を行っている。このモニタリング調査の結果、海産魚介類に含まれる放射性物質の基準値である100 Bq/kgを超えるものは、2015年4月以降検出されていない。しかし、福島県の実産物の水揚げ量は依然として非常に少ない状況にある。これには、仲買などの流通の起点となる事業者の津波被害による廃業問題、水産加工業者の事業再開の遅延問題、こうした水産業の加工・流通問題による試験操業水準の制限問題、試験操業に対する政府補助金が本格的な漁業開始の阻害要因となっているなどの様々な問題がある。

以上の状況をふまえ、今回の専門家会合では、福島県における漁業復興をどのように考えたらよいのかについて、福島大学環境放射能研究所の和田敏裕准教授（農学）を招いて議論を行う。議論を踏まえ、今後の福島県における水産業のあり方について考える。

なお、本専門家会合は、W-BRIDGE「福島県を通りにおける広域自治体連携によるレジリエンスの強化に関する研究」（研究代表者：早稲田大学教授・松岡俊二、平成30年7月～平成31年6月）に基づくものである。

2. 日時・会場

日時：2018年7月10日（火）16:00～18:00

会場：早稲田大学（早稲田キャンパス）19号館（早大西早稲田ビル）713会議室

3. 内容

司会：

松岡 俊二（早稲田大学アジア太平洋研究科・教授）

講演：

和田 敏裕（福島大学環境放射能研究所・准教授）

「福島県における海面・内水面魚類の放射能汚染の現状と漁業復興への課題」

討論

大手 信人（京都大学大学院情報学研究科・教授）

磯辺 吉彦（特定非営利活動法人広野わいわいプロジェクト・事務局長）